

Ⅱ. 平成26年度グローバルユースリーダー育成事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」の評価（案）

※ 事業終了から約3か月後の現時点においては、事業中～終了直後に行った効果測定に基づく評価。今後、事業終了から約1年後に行うフォローアップ及び事業終了から数年後を目途として行う中長期のフォローアップを実施する予定。

【事業の概要】

事業名：グローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」

実施期間：

陸上研修 平成27年1月26日～2月1日（7日間）

船上研修 平成27年2月2日～2月13日（12日間）

途中、那覇（沖縄県）及び大船渡／陸前高田（岩手県）の2か所に寄港

海外研修 平成27年2月14日～2月21日（8日間） ※ 日本青年のみ

参加青年：

日本青年 108名 外国青年 96名 合計 204名

外国青年の参加国 バーレーン、ブラジル、インド、ケニア、ニュージーランド、オマーン、ペルー、スリランカ、トルコ、英国

【事業の評価】

①参加青年の成長

- ・グローバルリーダーに必要とされる諸能力の向上度合いに関する参加青年自身の評価（1）

参加青年に対し、「コミュニケーション力」「リーダーシップ」「問題解決能力」「異文化対応力」「率先性、積極性」「自信」「計画力」「ディスカッション能力」「チャレンジ精神」「準備能力」「異文化適応力」「マネジメント力」の12項目について、本プログラムがそれぞれの向上に役立つと思うかどうか（5段階評価）を事業後に質問した。

全ての項目について「5 非常にそう思う」「4 そう思う」の合計が50%を超えており、とりわけ「異文化対応力」「異文化適応力」については80%以上、「コミュニケーション力」「率先性、積極性」「自信」「チャレンジ精神」については70%以上の高い数値を示した。

また、24年度・25年度事業に比べて、ほぼ全ての項目において参加青年自身による評価結果は向上している。その中でも「コミュニケーション力」「率先性、積極性」については10ポイント以上の高い伸びを示した。

		5 (非常にそう思う)	4 (そう思う)	5と4の合計	平均点
コミュニケーション力	26年度	35.8%	41.7%	77.5%	4.1
	25年度	32.3%	33.5%	65.8%	3.9
	24年度	21.8%	39.3%	61.1%	3.7

リーダーシップ	26年度	30.9%	35.8%	66.7%	3.8
	25年度	24.1%	41.8%	65.9%	3.7
	24年度	15.6%	33.2%	48.8%	3.5
問題解決能力	26年度	16.2%	38.7%	54.9%	3.5
	25年度	13.9%	33.5%	47.4%	3.4
	24年度	10.4%	33.2%	43.6%	3.4
異文化対応力	26年度	58.8%	29.9%	88.7%	4.4
	25年度	46.8%	37.3%	84.1%	4.2
	24年度	37.0%	43.1%	80.1%	4.1
率先力、積極性	26年度	35.8%	40.7%	76.5%	4.0
	25年度	24.7%	36.1%	60.8%	3.6
	24年度	19.9%	40.8%	60.7%	3.7
自信	26年度	34.8%	39.7%	74.5%	4.0
	25年度	27.8%	39.2%	67.0%	3.8
	24年度	-	-	-	-
計画力	26年度	18.1%	39.7%	57.8%	3.6
	25年度	22.8%	33.5%	56.3%	3.6
	24年度	-	-	-	-
ディスカッション能力	26年度	27.9%	35.8%	63.7%	3.8
	25年度	25.3%	39.9%	65.2%	3.8
	24年度	15.6%	36.5%	52.1%	3.5
チャレンジ精神	26年度	43.6%	28.9%	72.5%	4.0
	25年度	32.3%	34.8%	67.1%	3.9
	24年度	-	-	-	-
準備能力	26年度	22.5%	36.8%	59.3%	3.7
	25年度	19.0%	33.5%	52.5%	3.6
	24年度	-	-	-	-
異文化適応力	26年度	62.3%	23.5%	85.8%	4.4
	25年度	43.7%	40.5%	84.2%	4.2
	24年度	-	-	-	-
マネジメント力	26年度	21.6%	40.2%	61.8%	3.7
	25年度	20.9%	34.8%	55.7%	3.6
	24年度	-	-	-	-

・グローバルリーダーに必要とされる諸能力の向上度合いに関する参加青年自身の評価（2）

また、事前研修時（日本青年のみ）・陸上研修前（全参加青年）・船上研修後（全参加青年）・海外研修後（日本青年のみ）の4回に分けて、「コミュニケーション力」「リーダーシップ」「問題解決能力」「異文化対応力」「主体性、積極性」「自信」「企画力」「積極的な発言」「チャレン

「チャレンジ精神」「計画性」の10項目について、自身が6段階評価（「十分備えている」～「まったく備えていない」）でどの位置にあるかを質問した。

日本青年は、外国青年に比べて全体的に自己評価が低い傾向にあるが、陸上研修前と船上研修後を比較すると、外国青年に比べて伸びが大きく、さらに海外研修を経ることで数値が上がっている。また、事前研修時と陸上研修前を比べると半分以上の項目で数値が下がっている。これは、日本青年が研修の準備を進めるうちに、他の日本青年と自分を比べて自信を失ってしまうことが原因ではないかと考えられる。

各項目の中では、「異文化対応力」「自信」については1.0ポイント以上、「問題解決能力」「企画力」については0.8ポイント以上と特に大きな伸びがみられた。

		①事前 研修時	②陸上 研修前	③船上 研修後	④海外 研修後	②～③ 伸び	①～④ 伸び
コミュニケーション力	全参加青年	-	4.50	4.98	-	0.47	-
	日本青年	4.33	3.87	4.59	4.92	0.72	0.59
	外国青年	-	5.20	5.42	-	0.22	-
リーダーシップ	全参加青年	-	4.08	4.68	-	0.58	-
	日本青年	3.74	3.36	4.24	4.40	0.88	0.65
	外国青年	-	4.91	5.18	-	0.27	-
問題解決能力	全参加青年	-	4.36	4.83	-	0.46	-
	日本青年	3.91	3.81	4.47	4.70	0.67	0.80
	外国青年	-	4.99	5.24	-	0.25	-
異文化対応能力	全参加青年	-	4.75	5.37	-	0.60	-
	日本青年	4.34	4.31	5.19	5.41	0.88	1.05
	外国青年	-	5.25	5.57	-	0.32	-
主体性・積極性	全参加青年	-	4.49	4.96	-	0.45	-
	日本青年	4.16	3.83	4.53	4.76	0.70	0.61
	外国青年	-	5.23	5.44	-	0.21	-
自信	全参加青年	-	4.25	4.80	-	0.52	-
	日本青年	3.51	3.44	4.39	4.72	0.95	1.21
	外国青年	-	5.17	5.26	-	0.09	-
企画力	全参加青年	-	4.31	4.80	-	0.49	-
	日本青年	3.58	3.70	4.35	4.55	0.65	0.96
	外国青年	-	4.99	5.32	-	0.33	-
積極的な発言	全参加青年	-	4.02	4.63	-	0.60	-
	日本青年	3.71	3.16	4.06	4.42	0.90	0.70
	外国青年	-	4.99	5.28	-	0.29	-
チャレンジ精神	全参加青年	-	4.79	5.19	-	0.40	-
	日本青年	4.44	4.39	4.87	5.05	0.48	0.62
	外国青年	-	5.23	5.55	-	0.32	-

計画性	全参加青年	-	4.20	4.79	-	0.57	-
	日本青年	3.89	3.57	4.45	4.60	0.88	0.73
	外国青年	-	4.91	5.17	-	0.26	-

・異文化感受性発達調査（IDI）の実施結果

有識者の協力を得て、異文化感受性発達モデルに基づく「異文化感受性発達調査」（Intercultural Development Inventory）を参加青年のうち「異文化理解」「情報・メディア」コースの38名に対して実施した。その平均値は下表のとおり。

今回の調査においては、参加青年の違いを受容し、適合しようという態度に問題はなかったものの、異文化感受性に大きな変化はみられなかった。これは、短い事業期間で様々な活動を共同で実施する中で、参加青年が基本的には違いを楽しみながらも、無意識のうちに衝突を避けて自分と似た価値観の青年と一緒に過ごしてしまったのではないかと考えられる。

	事業前	事業後	変化
異文化感受性（145ポイント中）			
認知度	120.60	120.60	±0
発達度	87.84	87.35	-0.49
世界観プロフィール（5ポイント中）			
違いの否定	3.7	3.88	+0.18
転換	3.5	3.41	-0.09
違いの最小化	2.96	2.65	-0.31
違いの受容、適合	3.65	3.86	+0.21

・研修アドバイザー、研修講師等からの評価

実際に参加青年と寝食を共にしながら事業の運営に携わり、日常的に青年たちの成長を観察することができる立場にあった者からの定性的な評価を得た。その中でも特徴的なコメントを抜粋したものは以下のとおり。

- 管理官（事業全体の管理運営責任者）

一つの集団で行動していると、リーダーとフォロワーが得てして固定してしまいがちになりますが、期間中に様々な活動が並行して行われることで、様々な場面で異なる青年たちがリーダー的な役割を果たしている場面を度々見かけることができました。【事業報告書より】

- 研修アドバイザー（コース・ディスカッション等研修全体の企画・実施者）

海外研修については、どのコースもチームとしてのまとまりができ、自分のコースが一番であると自負しているところが印象的であった。日々の振り返りを積み重ねることにより各人の気付きが共有され、コースとしての一体感が醸成されてきたものと思われる。安心してグループの中で自己表現できるようになり、積極的にリーダーシップをとれるようになり、以前の自分とは違う自分になったという青年の言葉に研修の一つの成果を感じた。

サマリー・フォーラム、帰国後研修における海外研修発表会における報告・発表は、今回の事業が与えられた条件をいかして、最善に近い成果をもたらしたことを裏付けている。一方で陸上研修、船上研修、海外研修というある種慌ただしいものだったため、距離的に遠方に位置するペルーへの派遣団はかなり無理を強いられる内容となっていた。

【事業報告書より】

－ 研修講師（リーダーシップに関する研修講師）

最初は半信半疑のような表情で聞いていた参加青年たちも、後半の信念についてワークする段になるとかなり盛り上がってきて、最後は非常に高いエネルギー状態で終わることができた。特に共感と呼んだのは、「すべての人がリーダーである」ということ、そしてリーダーをリーダーたらしめるのは信念や志であり、それは誰の中にもあるという考え方であった。リーダーシップというと、特定の立場の人しか発揮できないもの、あるいは特定の人にはしか備わっていない資質や才能というふうにとらえている場合が多かった参加青年たちにとってこの考え方は新鮮だったようで、自分たちにもその気になればリーダーシップを発揮できる可能性があることを知って少なからず自信と希望を得た様子であった。【事業報告書より】

1か月の研修中に、参加青年は (1)陸上研修当初、期待と不安の入り混じった状態(2)船上研修に移ってからのカルチャーショック状態(3)ナショナルプレゼンテーション等の活動を経た達成感を得た上で、船上研修も残り短いのでとにかくやってみようという開き直りの状態(4)海外研修を経て、地に足を着けて事業が終わった後のことを考える段階というフェーズを通過して成長するように思う。ただし、個人差があることに留意し、この(2)から(3)、(3)から(4)の移行をスムーズにできるようサポートすることが大事ではないか。

また、参加青年が事業中に得る重要なものとして、世界のスタンダードの中で自分にはどのような強みがあり、課題があるかという「自己認識」と自分が今生きている世界、社会はどうなっているかという「社会認識」の両面の高まりがある。この高まりを前提として実質的な成長につながるかどうかは、本人の努力と事後活動を含めた継続的なフォローが重要。【第2回会議のヒアリングより】

②各国との関係強化及び我が国への理解・関心の向上

・相互理解や日本への印象の変化に関する参加青年自身の評価

参加青年に対し、「自分と日本の人々との相互理解」「自分と他国の人々との相互理解」「自分と他国の人々との友好関係構築」について、本プログラムがそれぞれの向上に役立つと思うかどうか（5段階評価）を事業後に質問した。また、日本に対する印象が本プログラムへの参加でどのように変わったか（5段階評価）についても質問した。

全ての項目について全参加青年の平均で「5 非常にそう思う」「4 そう思う」の合計が80%を超える高い数値を示した。特に相互理解の促進や我が国への理解・関心の向上の観点から重要と考えられる項目について、日本青年・外国青年別に経年変化をとった表を以下に示す。

相互理解の促進については、過去の事業においても日本青年・外国青年ともに高い水準にあったが、引き続き本事業においても90%を上回る青年から本事業は相互理解の促進に役立つとの回答を得ることができた。

日本に対する印象の変化について、1 か月超の船上研修と外国寄港を行った 23 年度が 90% 以上という高い数値であり、その後、より短期間の船上研修と国内寄港を行った 24 年度、25 年度はそれから 10 ポイント以上下がる結果となったが、同じくより短期間の船上研修と国内寄港を行った 26 年度は 23 年度を上回る高い数値となった。これは、3 年間の国内寄港事業を実施する中で、被災地の視察など特に外国青年の満足度の高いプログラムをより効果的に組み込むことができるようになった結果と考えられる。

- このプログラムは、あなたと日本の人々との相互理解に役立つと思うか（外国青年）

	26 年度	25 年度	24 年度	23 年度
5（非常にそう思う）	78.1%	64.8%	57.9%	75.8%
4（そう思う）	18.8%	32.4%	36.8%	18.0%
5と4の合計	96.9%	97.2%	94.7%	93.8%

- このプログラムは、あなたと他国の人々との相互理解に役立つと思うか（日本青年）

	26 年度	25 年度	24 年度	23 年度
5（非常にそう思う）	62.0%	63.2%	33.6%	66.7%
4（そう思う）	30.6%	31.0%	44.0%	24.8%
5と4の合計	92.6%	94.2%	77.6%	91.5%

- 日本に対する印象は、プログラムへの参加でどのように変わったか（外国青年）

	26 年度	25 年度	24 年度	23 年度
5（とても良くなった）	66.7%	59.2%	34.7%	47.7%
4（良くなった）	26.0%	22.5%	38.9%	43.8%
5と4の合計	92.7%	81.7%	73.6%	91.5%

・各国ナショナル・デリゲーション・リーダーからの評価

外国青年の国ごとの代表として参加した各国ナショナル・デリゲーション・リーダーから、本事業が各国青年の成長や我が国との友好促進についてどのような役割を果たしたか、定性的な評価を得た。その中でも特徴的なコメントを抜粋したものは以下のとおり。

- ブラジル

ホームステイはこの事業のハイライトの一つだと思います。ほかには類を見ない文化交流であり、参加青年が日本文化に深く入り込むことができる機会です。国境と時間を超えた友情の絆も深めてくれます。短い日程（二泊と中一日）でも成果は大きいのですが、少なくとも丸二日間以上にする事で、更にすばらしい成果が得られると確信しています。

- インド

“Vasudeva Kutumbakm” とは「世界は家族のように一つになる」という意味のサンスクリット語ですが、「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」はまさにその成功事例です。セミナー、リーダーシップ活動、自主活動、自己啓発コース、異文化理解、国際的な絆、完璧な時間管理など、世界でも例を見ないプログラムです。

この事業は、参加青年の人格形成を助け、それぞれの人生に様々な興味深い事実を付け加えてくれます。

- ニュージーランド

(提案として)

・各国参加青年が親交を深め、個人的に情熱を持っている関心についてディスカッションするために、夜の自由時間を増やすと良いでしょう。

・船上で二週間過ごしてようやく互いを深く知り、打ち解け始めることができました。1～2週間、船上での時間を増やせば効果的でしょう。

- ペルー

寄港地活動が本事業の要の一つであることは間違いありません。沖縄県那覇市と岩手県大船渡市・陸前高田市を訪問し、日本の様々な文化の全体像をつかむことができました。

陸前高田市の訪問では、2011年の大震災と津波の影響への理解を深めることができました。被災地を訪れ、復興の証人となったことは、ローカルユースとの対話や課題別視察と同様に、私たちの目を開かせてくれ、また謙虚な気持ちにさせてくれました。この訪問を通じて、自国の現実を振り返ることができました。

- スリランカ

本事業の優れた点は、寄港地活動委員会、リーダーシップ・セミナー委員会、PYセミナー委員会など様々な委員会があることです。これらは青年がリーダーシップを発揮し、リーダーシップ・スキルとチームワークを高めるためのすばらしい機会です。国籍が様々なある私たちが一つのチームとして団結し、協力し合えることを知り、感動しました。

・ 在外公館、参加国政府からの事業に対する評価

事業終了後、在外公館及び参加国政府に対してアンケートを実施し、主に外交的観点からの事業の有用性等に関する評価を把握した。在外公館に対して「参加外国青年の日本に対する関心・理解の向上」「相手国と日本との関係強化」の観点からそれぞれ事業が有意義かどうか（5段階評価）を質問したところ、グローバルユースリーダー育成事業については、回答した全ての在外公館が「5 非常に有用」「4 有用」と回答しており、本事業が高い評価を受けていることがわかった。

また、相手国政府に対し、本事業が相手国と日本との友好関係の促進に貢献していると思うか（5段階評価）を質問したところ、本事業については同じく回答した全ての政府が「5 非常に有用」「4 有用」と回答しており、政府側からも高い評価を受けることができた。

- （在外公館に対しての質問）この事業は、招へいされた外国青年の日本に対する関心・理解の向上にとって有意義だと思うか。

	グローバルユースリーダー育成事業のみ	全事業合計
5（非常に有用）	5か国	18か国
4（有用）	5か国	7か国
3（どちらとも言えない）	なし	なし

- (在外公館に対しての質問) この事業は、相手国と日本との関係強化という観点からみて、有用なツールだと判断するか。

	グローバルユースリーダー 育成事業のみ	全事業合計
5 (非常に有用)	6 か国	17 か国
4 (有用)	4 か国	8 か国
3 (どちらとも言えない)	なし	なし

- (各国政府に対しての質問) この事業は、相手国と日本との友好関係の促進に貢献していると思うか。

	グローバルユースリーダー 育成事業のみ	全事業合計
5 (非常に有用)	8 か国	18 か国
4 (有用)	2 か国	3 か国
3 (どちらとも言えない)	なし	1 か国

・訪問国での事業の報道振り

現地メディアでの事業紹介は、当該国の国民一般の我が国への関心を高めることができる重要なツールであり、本事業においてもテレビ・新聞等のマス媒体で取り上げられることで一定の関心喚起を行えたにとらえることができる。

他方、航空機での訪問は船の寄港に比べてニュースバリューが低いことに留意する必要がある。例えば、外国寄港を行った 23 年度事業においてはインド・スリランカの現地複数紙において事業に関する記事が第 1 面に掲載された。

本事業の日本青年の海外研修における訪問国での具体的な報道振りは以下のとおり。

- バーレーン：現地新聞での記事掲載
- ニュージーランド：青年担当大臣によるプレスリリースの発行
- ペルー：現地新聞での記事掲載
- スリランカ：複数のテレビ局及びラジオ局でニュースとして紹介
- トルコ：国営テレビでニュースとして紹介

・訪問国政府の対応振り

相手国政府の首脳級、閣僚級の要人への表敬は、相手国政府が本事業を重要視していることを示す一つの指標であると同時に、政府要人に対して直接、我が国を印象付け、関心を高めることができる貴重な機会である。

本事業の日本青年の海外研修において実現した表敬訪問等は以下のとおり。

- ニュージーランド：首相・青年担当大臣への表敬訪問及び同大臣主催レセプション
- スリランカ：青年担当大臣への表敬訪問
- トルコ：首相・青年スポーツ大臣への表敬訪問

③人的ネットワークの構築と社会貢献活動の促進

・人的ネットワークの広がりに関する参加青年自身の評価

参加青年に対し、本プログラムからどのようなことを得たかを複数選択式で質問した。そのうち「多くの友人を得ることができた」と回答した参加青年は 161 名（日本青年 89 名、外国青年 72 名）であり、回答者の 78.9%に達した。

・事業の成果を地域や国に還元していく意欲に関する参加青年自身の評価（1）

参加青年に対し、本プログラムを通して社会貢献活動に参加したいという意欲を持ったかどうか（5段階評価）を事業後に質問した。「5 非常にそう思う」「4 そう思う」の合計が 90%を超え、ほとんどの参加青年が強い社会貢献意欲を示した。

また、26 年度事業は過去 3 回の事業と比較してもより高い数値を示しており、参加青年の社会貢献意欲を高め、事業の成果を参加青年本人が得るだけでなく、地域や国、国際社会に還元していくという事業の趣旨をより高い程度で達成しているのとらえることができる。

また、具体的にどのように事業の成果を活用していくか、どのような事後活動を計画しているかについて記述式により質問したところ、多くの参加青年から具体的な回答があり、事業終了直後の段階においても、今後の社会貢献について、具体的な内容まで考え、実践しようとしていることがわかった。

－ 事業参加を通じて、社会貢献活動に参加したいという意欲をもったか。

	26 年度	25 年度	24 年度	23 年度
5（非常にそう思う）	55.9%	42.4%	45.0%	62.3%
4（そう思う）	35.8%	48.1%	42.7%	24.1%
5と4の合計	91.7%	90.5%	87.7%	86.4%
平均点	4.5	4.3	4.3	4.5

－ 本事業への参加を通して得た体験やネットワークを将来いかに活用しようと思うか。また、どのような事後活動をしようと考えているか。（抜粋）

（日本青年）開発の仕事ができるインターンシップ・プログラムへの参加と、IYEOを通じて日本社会に貢献することを計画している。

（日本青年）福島にある 2011 年の災害で両親を亡くした子供のための養護施設で、子供たちに世界について教えたい。夢に向かって進み、国際的な環境に対して積極的になる後押しができるようになりたい。

（日本青年）記者になるので、今後、個人的なつながりを最大限に活用したい。私たちのレター・グループでは 1 年に一度「G グループの日」を設定し、事業の後も何らかの社会貢献を実行することを決めた。

（ブラジル青年）ブラジルでイスラム教徒に対する理解を広める活動を行おうと計画している。さらに、日本で教育・政治問題に取り組む決意を固めた。日本で英語教師となることを予定している。

(インド青年) 貧しい人々に無償の教育を与える NGO を立ち上げたい。「Teach for Japan」から学んだように、持続可能な開発のための教育に必要な活動の場の基礎作りに役立つだろう。

(ケニア青年) (井戸を掘る形で) 地元の農村地域に給水所を設けることを考えており、そのための助言や指示を得られるようネットワークを活用したい。

・事業の成果を地域や国に還元していく意欲に関する参加青年自身の評価 (2)

また、事前研修時 (日本青年のみ)・陸上研修前 (全参加青年)・船上研修後 (全参加青年)・海外研修後 (日本青年のみ) の 4 回に分けて、「海外への留学」「海外での勤務」「国際的な仕事や仕事以外の活動 (ボランティア等)」「地域に貢献する仕事や仕事以外の活動 (ボランティア等)」「仕事や仕事以外でのリーダーシップの発揮」「英語等の語学力の向上」「日本についての理解」の 7 項目について、それぞれ今後の意欲を 6 段階評価で質問した。

元々の数値が平均で 5 (6 段階評価の上から 2 番目) 程度と比較的高かったため、全体に伸びは大きくないが、「地域に貢献する仕事や仕事以外の活動 (ボランティア等)」「仕事や仕事以外でのリーダーシップの発揮」の 2 項目について日本青年には 0.5 ポイント以上の伸びがみられた。本事業に参加を志望する青年は、国際的な活躍を希望する者が多いため地域に密着した仕事についてはどちらかといえば関心が低い傾向にあるが、事業を通じて、様々なキャリアや自己実現のあり方を学び、地域での活躍についても魅力を感じるようになったものと思われる。

		①事前 研修時	②陸上 研修前	③船上 研修後	④海外 研修後	②～③ 伸び	①～④ 伸び
海外への 留学	全参加青年	-	5.34	5.32	-	0.08	-
	日本青年	5.21	5.19	5.37	5.52	0.18	0.31
	外国青年	-	5.51	5.47	-	△0.03	-
海外での 勤務	全参加青年	-	4.93	5.16	-	0.22	-
	日本青年	5.04	4.88	5.08	5.28	0.20	0.24
	外国青年	-	4.98	5.24	-	0.23	-
国際的な仕事 やボランティア	全参加青年	-	5.26	5.50	-	0.23	-
	日本青年	5.34	5.01	5.30	5.47	0.28	0.13
	外国青年	-	5.54	5.72	-	0.18	-
地域に貢献す る仕事やボラ ンティア	全参加青年	-	5.44	5.68	-	0.24	-
	日本青年	4.81	5.15	5.58	5.58	0.43	0.78
	外国青年	-	5.76	5.79	-	0.03	-
リーダーシップ の発揮	全参加青年	-	5.38	5.60	-	0.22	-
	日本青年	4.96	5.09	5.43	5.46	0.34	0.50
	外国青年	-	5.71	5.79	-	0.09	-
語学力の 向上	全参加青年	-	5.69	5.82	-	0.12	-
	日本青年	5.86	5.62	5.81	5.81	0.19	△0.05
	外国青年	-	5.77	5.82	-	0.04	-

日本について の理解	全参加青年	-	5.65	5.68	-	0.03	-
	日本青年	5.69	5.46	5.57	5.64	0.11	△0.06
	外国青年	-	5.65	5.68	-	0.03	-